

行事報告書(研修)

報告者:池田 清、大原 徹

行事名	自然観察会
実施日時	2021年 3月 11日(木曜日) 10:00~15:00 天候:晴れ
場所	阪急仁川駅前「さらら仁川」ホール(集合)→軸屋さんの講義→仁川河原→仁川高台→仁川緑地→広河原(昼食)→自然の家→甲山安山岩→花崗岩と大阪層群の不整合→展望台(解散)
テーマ	甲山周辺の地層観察
講師	軸屋 宏子さん
参加者数	29名
内容 (項目と概要)	<p>11月の箕面公園自然観察会以来、久々の自然観察会。今回は地層観察でした。</p> <p>〈講義〉 講師の軸屋さんから本日の巡検ルート及び観察のポイントに関する講義を受けました。 甲山周辺には地質の教材が沢山あること、今日は3種類の岩石(花崗岩、安山岩、チャート)の区別がつくようになって下さい、とのこと。プロジェクターを使い、岩石の種類、甲山周辺の地質分布、断層、段丘層、大阪層群、海成粘土層 Ma1 等々、約40分間の解説がなされました。</p> <p>〈阪急仁川駅～仁川緑地～広河原〉 仁川の河原へ下り、花崗岩の真砂土化した砂を踏みしめながら上流へ。川底にも真砂土。上流へ行くにつれ川底の石が大きくなっていく様子が分かりました。川向こうに閑学の建つ上ヶ原台地を見ながら標高140mの「五ヶ山古墳群2号古墳」前まで久しぶりの登坂。息もキレギレ、給水の小休止。ミモザ、山茱萸やハクモクレンの花に癒されました。仁川緑地で有馬高槻構造線(地震で右横ずれを起こした)を見た後に、大阪層群の海成粘土層 Ma1 の露頭を観察。粘土層の厚さは約2m、この下に花崗岩があるとのこと。大阪湾下530mの層をこの高さまで隆起させている東西圧縮力の大きさを実感しました。広河原迄の五ヶ池ピクニックロード脇の露頭に大阪層群が所々見えましたが、こちらも粘土状で Ma1 でした。市伐採工事が付近で行われていて粘土層は横に大きく広がっていました。そのせいか、粘土層の端に砂礫層も見えました。これは Ma1 層ではありません。広河原に13時到着、昼食後13時半過ぎに出発。</p> <p>〈広河原～甲山自然の家前～甲山登山口付近～展望台〉 右手にコバノミツバツツジの花を見ながら自然の家前へ到着、捕獲岩を観察。貫入した安山岩を花崗岩がまるで捕獲しているようだ、ということで「捕獲岩」の名になっているとのこと。花崗岩と安山岩との比較ポイント(黒っぽい色の安山岩。結晶粒の大きい花崗岩)を教えてくださいました。続いて、登山口付近の溝状になった露頭で、風化した花崗岩の上に大阪層群の砂礫層が堆積している“不整合”を観察しました。隆起前の海底でこのような状況になっていたと思うと、改めて地球の悠久の歴史を感じました。この周りで石を拾い、チャート、安山岩の同定を試みました。チャートは多く見まりましたが、安山岩は少なかつたようです。ヒサカキの花の“大阪ガスの匂い”を嗅ぎながら北門経由で展望台へ到着。</p> <p>浄水場と閑学との間に段差をもって伸びているのが甲陽断層とのこと。地質図を用いて中位段丘層、低位段丘層の区域等を具体的に解説して頂き、今日の観察会を終えました。15時解散。</p>
	   
	海成粘土層 Ma1 捕獲岩 大阪層群と花崗岩の不整合 チャートと安山岩
まとめ 感想	軸屋さんの講義である程度の知識を得てからの観察でしたので、地層・地質・岩石等、への理解が深まり、親しみが増したように思います。今後の野外観察に生かしたいと思います。